

# 平成25年度 事業報告

## I WAC事業 《 公益目的事業・その他事業1・その他事業2 》

### ◆ WAC(ウェルディングコミュニティ)事業 ◆

平成元年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

○公益目的事業 :WAC法に基づく施設(疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム)の設置および運営

○その他事業1 :疾病予防運動センターのうち60歳未満の利用者(全利用者の3割相当)に該当する部分

○その他事業2 :在宅介護サービスセンターのサテライト拠点(奈良事業の奈良店)

老人保健施設・訪問看護ステーション・ケアプランセンター(奈良事業のみ)

### (1)奈良事業 (厚生労働省WAC認定事業:平成2年10月17日付)

#### ①疾病予防運動センター (WAC第1号施設) 【ニッセイ・アーク西大和】

- ・人気のあるパーソナルトレーニングを拡充し、スタジオやプールプログラムのクラスを増設(75から78クラス)して、より利用者ニーズに対応した施設づくりに取り組みました。
- ・入会キャンペーン月の設定、新聞折り込み広告などの効果的活用により、利用者の運動意欲向上と地域住民への施設認知度向上に努めました。
- ・上牧町でのシルバー教室「健康ストレッチ」へ月1回スタッフを派遣し、健康づくりの出張指導を実施しました。
- ・エデンの新規入居者を中心にエデン入居者の利用が増加して、健康・福祉の総合施設として寄与しました。

#### ②診療所 (WAC第1号付置施設) 【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・パーソン・センタード・ケアの考え方にに基づくケアやリハビリの充実、人材育成に力をいれました。
- ・近隣医療機関との連携により地域住民の受託検査、予防接種の実施、河合町介護教室へ講師派遣、河合町の保健事業への協力、献血活動等の地域住民に対する疾病管理、健康増進等を推進しました。
- ・在宅医療支援診療所機能強化の施設基準を取得し、単価とともに診療の質向上に努め、医事・健診システム更新と関連システムの連携で、患者情報の一元管理やデータオンラインが可能になりました。
- ・外来は年度途中からの整形外科休診の影響等もあり、平均患者数は減少しました。入院は各部署連携による入退院調整が機能し、前年と同数の平均患者数が維持できました。

#### ③高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設) 【ふれあいプラザ】

- ・文化教養・体験講座では、講師や受講生の作品をエデン作品展へ出展、入居者が講師となり「地震」をテーマとした出張講座を近隣自治会に向けて開催しました。
- ・ふれあいイベント等では、落語会、「健康は食生活から」をテーマにした健康フェスタを河合町と協力して開催し、多くの方々にご参加いただきました。

#### ④在宅介護サービスセンター [訪問介護、福祉用具貸与・販売事業]

(WAC第3号施設) 【ニッセイいれい在宅介護サービスセンター ベル西大和店・奈良店】

- ・西大和店では、訪問介護サービスの介護保険扱訪問時間と福祉用具貸与の増加、施設内へのヘルパー派遣により予算を上回る収益となりました。奈良店では、訪問介護は、新規利用者数に比べて入院やご逝去による利用者数の減少が上回り、加えて訪問時間が減少し、予算未達となりました。

#### ⑤訪問看護ステーション [訪問看護事業] (WAC第3号関連施設) 【訪問看護ステーション西大和・奈良】

- ・西大和店はリハビリニーズや医療依存度の高い利用者数の増加により予算を上回りました。奈良店は医療保険扱の新規利用者が増加する一方、入院やご逝去によるケア中止が多く利用者数、訪問件数ともに予算未達となりました。

#### ⑥ケアプランセンター [居宅介護支援事業] (WAC第3号関連施設)

【ニッセイいれいケアプランセンター西大和、ニッセイいれい在宅介護サービスセンター ベル西大和店・奈良店】

- ・ケアプランセンター西大和では、入院・入所・ご逝去などの利用者が増加し、ケアプラン作成人数は減少しました。ベル西大和店ではケアプラン作成人数を対前年で維持しましたが、ベル奈良店では減少となりました。

#### ⑦有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] (WAC第4号施設) 【奈良ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は36戸で、予算戸数(22戸)を大きく上回りました。また退去が29戸(一般居室16戸、介護居室13戸)、介護居室への住替えが11戸ありました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は392戸(総戸数408戸に対し入居率96.1%、入居者数496人)となりました。(一般居室358戸/362戸(入居率98.9%)、介護居室34戸/46戸(入居率73.9%))
- ・入居者の平均年齢は81.4歳(男性80.7歳、女性81.6歳)となり、対前年0.1歳減となりました。
- ・総入居者数496人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末119人(24%)となりました。
- ・パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービス提供を根幹とし、計画的に認知症ケアマッピングを実施しました。
- ・食事サービスの質向上と効率化を目指し、新たな食事委託業者による運営の開始、満足度調査を実施しました。また、食堂及び喫茶ラウンジのリニューアル、介護居室のフロア改修など開園20年を超えたこの時期に施設整備を行いました。
- ・地域社会との連携・交流については、地域連携グループを中心に「出張介護講座」「介護の日ふれあいフェスタ」「防災フェスタ」の開催や「葛城エコフリーマーケット」への出店(売上は河合町社会福祉協議会に寄付)、「大和川一斉清掃」のボランティア活動に参加しました。
- ・省エネ・資源循環活動の取り組みについては、利用者とともにエコキャップ回収活動を継続し、また、デマンドコントロール(使用電力監視装置)を活用し、照明LED化や各部署で節電対策を実施し、契約電力を560Kwから550Kwへ変更しました。

**⑧介護老人保健施設 [ 介護老人保健施設、短期入所療養介護、通所リハビリテーション ] (WAC 付帯施設) 【 奈良ベテルホーム 】**

- ・利用者ニーズに対応するため、当施設の強みを明確化し、積極的な渉外活動を展開し、さらに通所用介護浴室を新設することにより、利用者数の目標達成を最重要課題として取り組みました。短期入所・通所リハビリテーションに関しては概ね目標達成しましたが、入所に関しては予算(109人)に対し未達となりました。
- ・地域社会との連携・交流については、「家族介護教室」「夏祭り」地域住民や河合町第三小学校への「出張介護講座」の開催、広報誌「ベテルだより」の発行(年3回、計3,000部)を通じ交流を深めました。

**(2)松戸事業** (厚生労働省WAC認定事業：平成6年12月15日付)

**①疾病予防運動センター (WAC 第1号施設) 【 ニッセイセントラルフィットネスクラブ 松戸 】**

- ・地域密着と顧客満足度の向上を目指し、個人のニーズに応じた「パーソナルトレーニング」の拡大、新入会サポートシステムの徹底、物販イベントを毎月開催し、退会率2.5%で目標(2%台)が達成できました。
- ・前年度開講した「キッズダンススクール」は、教室数の増設や園の納涼祭で実演披露するなど、益々地域社会との連携・交流が定着してきました。

**②診療所 (WAC 第1号付置施設) 【 松戸ニッセイ聖隷クリニック 】**

- ・内科医師の病欠による休診等が発生し、一時的に外来患者数は減少したものの、ニーズの高い整形外科外来枠を倍増(月2回→月4回)し、前年度並みの患者数が維持できました。また、形成外科外来では、電気手術器による皮膚処置(シミ・ほくろ取り等)を開始し、QOLを高める診療につながったほか、患者数及び診療単価の向上にもつながりました。
- ・6月より健康管理室を設置して専任看護師を配置し、入居者の定期・簡易健康診査、居室訪問などを活用し既往症や内服薬の情報などを備え、早期診断や救急時への体制を整えました。

**③高齢者総合福祉センター (WAC 第2号施設) 【 ニッセイ松戸アカデミー 】**

- ・地域社会との連携・交流及び高齢者の生きがい増進にかかわるサービスの提供など従来からの取り組みに加え、地域の福祉ショップに定期的な出張販売の機会を提供するなど、新たな地域との結びつきを持つことができました。
- ・入居者ボランティアによる「子供工作教室」(年10回開催)は、実際の作業に加え、参加する子供たちとの交流が生きがい増進に大きく寄与し、新たな世代間交流の形を模索することができました。

**④在宅介護サービスセンター [ 訪問介護事業 ] (WAC 第3号施設) 【 ニッセイエデンヘルパーステーション 】**

- ・継続的な医療機関や在宅介護支援事業所への営業活動により、コンスタントに新規利用者を獲得できた結果、受託事業であった年度を除き、開設以来初めての黒字決算を実現することができました。
- ・地域見守り体制構築のために、近隣開業医と共同して試行している「あんしん電話」の取り組みを継続しました。また、隣接の松戸愛光園在宅部門(居宅介護支援・通所介護)と連携し、情報紙の配布や「いきいき介護フェスタ」での相談コーナー設置など、地域に根ざしたPR活動も行いました。

**⑤有料老人ホーム [ 特定施設入居者生活介護事業 ] (WAC 第4号施設) 【 松戸ニッセイエデンの園 】**

- ・空室発生が少ない中での募集活動で、一般居室の新規契約戸数は11戸で、また退去が9戸(一般居室3戸、介護居室6戸)、介護居室への住替えが4戸ありました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は346戸(総戸数352戸に対し入居率98.3%、入居者数433人)、一般居室は空室ゼロとなりました。(一般居室315戸/315戸(入居率100%)、介護居室31戸/37戸(入居率83.8%))
- ・入居者の平均年齢は83.6歳(男性83.6歳、女性83.6歳)となり、対前年0.5歳上昇しました。
- ・総入居者数433人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末で125人(29%)となりました。
- ・認知症ケアマッピングを継続するとともに、認知症看護認定看護師を中心に早期の認知症発見と治療を含めた対策について充実を図りました。
- ・簡易栄養調査を実施し、園の食事サービスの有効性に関する調査を開始しました。

**Ⅱ 調査研究事業 《 公益目的事業 》**

**(1) 地元行政機関等と連携した地域住民への高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野(以下「4分野」という)に関する情報提供**

- ・奈良県及び河合町と連携して、3月に「健康は食生活から」をテーマにした講演会を健康フェスタとして開催しました。

**(2) WAC事業の展開の中で4分野に関するノウハウ・スキルの研究と成果の関係諸機関への情報提供**

- ・高齢社会における安心なまちづくりに向け、高齢化率の高い地域における住民の見守りあい体制のあり方に関して、平成24年度に引き続き、松戸市梨香台団地において実践的研究(期間2年)を行いました。
- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び発表会(園内学会)を9・10月に開催、その研究成果について地域住民や関係諸機関へ情報提供を行いました。  
(社会福祉法人聖隷福祉事業団及び一般財団法人日本老人福祉財団との共同研究)

**(3) 地域住民への4分野に関する情報提供活動の実施**

- ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、近隣にお住まいの高齢者及びその家族に対して、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取り組みを実施しました。
- ・奈良施設、松戸施設各々で「高齢期の暮らし」をテーマに講演会を開催し、高齢期の住まいの選択肢のひとつとして有料老人ホームを核としたまちづくり施設の情報提供に努めました。
- ・松戸施設において、3月に「日常生活とがん予防」をテーマとした講演会を開催しました。

**Ⅲ 奨学金助成事業 《 公益目的事業 》**

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- ・1人当たり助成金は年間24万円(月2万円)、年間助成対象者は50人です。これまでの累計助成者数は576人となりました。